

▲▼▲ 11月10日第57回クリエイティブサロン開催報告 於:SSBC会議室▲▼▲

講演会:『イノベーション教育とイノベーションワークショップ』

講演者:金恩英氏 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科准教授・日本創造学会会員



第56回クリエイティブサロン講演では、米国、日本、ドイツ、韓国など先進国の名門大学で研究し、教育した経験をもとに、現在の大学の問題とトレンドを理解し、今後必要とされる大学教育の姿は何かについて議論しました。

まず、現在の大学教育の課題としてミレニアル世代と呼ばれる新しい世代の学習方法の理解、大学財政構造の変化に伴う需要者のニーズに合わせた新しい教育プログラム、創造性の必然によって新たに生じるいくつかの新生研究分野の教育の方向性確立などについて議論しました。続いて、先進国では、今後のソサエティ5.0時代に備えるため、どのような形の新しい大学または大学院教育課程を設立し、どのように運営していくのかという事例 - コーディング教育をするフランスのエコール42、古典を読む韓国の健明院、毎学期世界の都市を移動、生活しオンラインアクティブラーニングをするミネルバスクール、起業家精神を強調する米国シリコンバレーのシンギュラーティー大学 - を紹介しました。

そして、創造性研究の世界的な学者であるルンコとクリステンセン教授の理論に基づいて、創造性とイノベーションはどのように違うのか、イノベーションはどのように分類することができ、教育者の立場から学生にどのようなイノベーション創出を奨励すべきについて説明しました。続いて講演者本人の実証的な教育経験と、これをもとに、革新的なアイデアの創出のための主な要因は何であり、それに応じてイノベーションワークショップのプロセスをどのように設計することができるかについて説明しました。

講演は、英語でしたが質問は日本語と英語の両方を使用し、イノベーション教育における国際比較、教育者としての課題等について議論が行われました。(記事:金恩英)

ワークショップ:『できたことノート実践講座』

講師:永谷研一氏 発明家、株式会社ネットマン代表取締役社長



「できたことノート」実践講座 雑感

- できたことの見つけ方(Happy、Number、Personメガネ)
→感情に着目する、数に着目する、相手に着目するなど今日の自分をポジティブに捉えること
- 自分と向き合う、内省のための4つの要素
→反省と内省は違う、内省して素直な本音の思考やクリティカル・シンキングで深く思考すること
- 行動力をアップする、クリティカル・シンキング手法
→できたことを見つめた後で、究極の質問をすること…「果たしてほんとにできたと言えるのか」
- ありがたい姿を見つけるためには
→純粋な心を開放するため「心のフタ」を開けること…視野を広げ視座を高くする

などなど、先生の全力投球のワークショップが老朽化した思考と体にみずみずしさを与えてくれた至極の時間でした。懇親会では、先生と会員の共通の友人、先生、先輩などが繋がり大盛り上がりでした。

ワークショップ終了後、先生が即フェイスブックに感想を書いてくれましたのでアップさせていただきます。

『今日は日本創造学会主催のクリエイティブサロンに呼ばれ「できたことノート実践講座」をやってきました。若い企業家や大学の先生方々に混じり多くの年配の方々も参加されてワークを楽しんでいらっやいました。

事後アンケートでは前向きな意見を沢山もらいました。70歳近いシニアの方が少し目をウルウルしながら「今日は来てよかった！目が覚めた。とても元気になった。明日からも頑張る」って帰って行ったことを事務局の方に聞いて、ほんと、やってよかったなと思いました。

セミナー中に自己肯定感が下がる理由は「他者との比較」と話すのですが、懇親会でシニアの方から「自己肯定感が下がる理由は加齢だ。他者との比較とはまさに過去の自分との比較。風呂上がり自分の体を見るとガッカリする」という意見があり皆さん、そうだそうだと同意されている姿に深く納得しました。

今まで子供や生徒、若手社会人や女性にフォーカスしてきましたがシニア層にも「できたことノート」の必要性を感じた次第です。また学会にお呼ばれするようなのでシニア向けにエビデンスとってみようかなとも思います。人生の先輩方！今日はありがとうございました。また会いましょう』(記事:豊田貞光/引用FB記事:永谷研一)